

# 平成 30 年度第 3 回朝日町総合教育会議 会議録

平成 31 年 2 月 20 日（水曜日）

午前 11 時 00 分から午前 12 時 00 分

創遊館会議室

出席者 朝日町長 鈴木 浩幸  
朝日町教育委員会  
教育長 小林 道和  
委員 児珠 孝童  
委員 五十嵐義一  
委員 井上 幸弘  
委員 村山 千鶴

## 職務のため出席した者の職氏名

教育文化課長 阿部 正文  
主幹 原田 正明  
主査兼スポーツ振興係長 伊藤 雅樹（書記）  
学校教育係長 安藤 正人

## 1. 開 会

課長の進行及び開会宣言

## 2. あいさつ

鈴木 浩幸 朝日町長

小林 道和 教育長

## 3. 協議事項

教育文化課長より会議の招集者である町長を議長とすることを確認し、了承を得る。

**議長（鈴木町長）** (1)平成 30 年度の朝日町の教育の推進（総括）について説明を求めた。

**主幹** 今年からスタートした第 2 次朝日町教育振興計画の目標指標に沿って、今年度の実績値等から推進状況について説明した。

**議長（鈴木町長）** (1)の協議内容について質疑、意見の有無を確認した。

**児珠委員** 各学校における教育、指導等については、先生方を中心に一生懸命対応いただき順調にきている。一方では児童数の減少等により、過剰な対応や過保護になりすぎることも懸念している。心の強さを育てる教育も必要だと感じる。

**井上委員** 今年からコミュニティ・スクールがスタートしたが、町民にとっても難しいことではなく、毎朝の通学班へのあいさつなどを通して学校に関心を持つことができ、もっと気楽に考えて良いと思う。学校からも手伝ってほしいことなどをもっと発信すれば、協力できることもある。今年のスキー教室の際にたまたま

居合わせており、急遽、手伝いできることがあった。

**五十嵐委員**

この度の体協表彰や文化表彰では、大変多くの方々が受賞されることとなっており、様々な分野での活躍がみられる。日々の努力はもちろんのこと、指導者の指導力等も向上している結果であり、今後とも継続する必要がある。

**村山委員**

大きな声で朝のあいさつなどをする元気のある小学生が年々減っている。中学校においては、校長自らが生徒一人ひとりを把握して、声掛け、見回り（見守り）など保護者としてありがたく感じた。

**教育長**

第2次朝日町教育振興計画、コミュニティ・スクールのスタート年である今年1年を振り返った。特に、ふるさと朝日町を想うということ、郷土学習・探究型学習を通して推進したことは、大きな意義があったと感じている。

**議長（鈴木町長）**

小学生のあいさつについては残念だが、何か要因はあるのか。

**主幹**

防犯や安全面の指導との裏返しもあるが、あいさつにも力を入れていく必要がある。中学校では、あいさつにも力を入れており、保小中連携の中でも良い部分を共有しながら推進していきたい。

**教育長**

コミュニティ・スクールの推進していく中で、学校・地域・家庭の一体感が生まれてくればあいさつにも繋がってくる。

**議長（鈴木町長）**

各委員のご指摘を踏まえ、来年度以降のコミュニティ・スクール等々での対応や推進をお願いしたい。

**議長（鈴木町長）**

(2)これからの朝日町の教育の推進について、各委員に意見を求めた。

**五十嵐委員**

コミュニティ・スクールの学校・地域・家庭が一丸となって推進することが重要だと思う。それによって元気なあいさつも回復できると思う。

**井上委員**

今年度から3箇年にわたる講演会の実施などを予定している朝日町生活キャンペーンや自校給食の大切さ、食を通じた学習についても、積極的に推進していく必要がある。

**児珠委員**

生活リズムを整えるには、保護者等の理解も不可欠であり家族への啓発・啓蒙にも力を入れていく必要がある。

**教育長**

子どもたちの学力と生きる力を培うため、今後も更に郷土学習・探究型学習を進めていくとともに、その子供たちを通じて家庭・地域を巻き込みながら、町全体が学習のまちとなれるよう推進していきたい。

また、生活キャンペーンについても町PTA連合会などにもお願いし、協力を得ながら推進していく必要がある。

**議長（鈴木町長）**

その報告事項について質疑、意見の有無を確認し、質疑及び意見並びにその他協議事項が無い旨を確認した。

以上、協議し、午前12時00分に第3回朝日町総合教育会議の会議を閉じた。

閉 会

町 長

教 育 長

調 製 職 員 伊 藤 雅 樹